

日本婦人科ロボット手術学会（JSGRS）・日本産科婦人科内視鏡学会（JSGOE） 2 学会合併のお知らせ

2024 年 8 月吉日

日本婦人科ロボット手術学会 理事長 小林裕明

2024 年 6 月 2 日に開催された総会において、日本婦人科ロボット手術学会（JSGRS）と日本産科婦人科内視鏡学会（JSGOE）の 2 学会は、2026 年 4 月 1 日に 1 つの学会として合併することが承認されました。

会員の皆様におかれましては、合併にいたる背景や今後について以下、ご確認いただきますようお願いいたします。

合併にいたる背景

本学会は井坂恵一前理事長が 2009 年に立ち上げられた研究会から 2018 年に現在の学会へと発展したものでした。2020 年には da Vinci プロクター制度を開始し、日本産科婦人科学会、日本産科婦人科内視鏡学会（JSGOE）、日本婦人科腫瘍学会のご協力を得て、まさに All Japan の体制で本邦の婦人科ロボット手術の安全普及に貢献してまいりましたが、手術術式の保険適用に関しては遅々として進んでおりません。他診療科が順調に保険収載術式を増やしている中、未適用の婦人科術式も安全に行える素地ができていること、それらが保険適用となることを患者も切望していること等々、我々は関係省庁にもっとアピールしなければなりません。本学会は“ロボット”という語句を含んでいるものの、まだ社団法人でも外保連加盟学会でもありません。これに対し、一般社団法人である JSGOE は充実した教育制度や認定医制度を有し、良性から悪性にわたる本邦の鏡視下手術を牽引してきた外保連加盟学会です。これ以上、婦人科ロボット術式の保険収載が遅れると、患者に恩恵を届けられないばかりでなく、骨盤外科を目指す若き医師たちが当科を敬遠することにも直結します。このような懸念を共有する複数の有志とともに、ここ数年、JSGOE と本学会の合併を模索して参りました。井坂恵一前理事長のご了承を経て、JSGOE の先生方とともにその実現可能性について検討を重ねましたが、最終的に支障なしと判断し、先日の総会で 2 学会の合併が承認されました。過日実施させていただきました日本産科婦人科学会会員を対象としたロボット手術に対するアンケート調査では、鏡視下手術関連学会の集約化を多くの会員が望んでいることがわかりました。今こそ枝葉末節にとらわれず高所大所から取り組むべき時期だと思いますし、合併しても本学会が今まで培ってきたレゾナドールは色褪せることなく新たな学会で生き続けていくと思います。学会合併によって、以下のことがメリットとして考えられます。

学会合併によって得られるメリット

- 産婦人科領域におけるロボット手術の諸制度に関する意思決定の迅速化を図れる。今後、ロボット手術が急速に普及・進歩する中で、迅速な意思決定は重要である。
- 産婦人科領域におけるロボット手術の対外的対応窓口を一本化できる。このことで他学会・厚生省を含む行政・ロボット企業等への対応を一元化しておこなえる。
- 事務管理・会計等の一元化による事務の簡素化とコスト削減が図れる。
- 同様な事業を一本化してスリム化することにより、さらに幅広い事業展開がおこなえる。

- ▶ 会員の方へ、内視鏡手術に関する網羅的教育、手術技術の改良、研究の促進など、コミュニティを一元化することにより会員が得られるメリットの相乗効果が期待できる。

合併後の活動

合併後は、本学会はロボット手術を含む内視鏡手術に関する統一的な産婦人科分野を代表する学会として活動します。

技術認定制度、プロクター制度等の現時点で運営されている制度については、可能な限り現状のままでシームレスに移行する予定です。

委員会活動・教育活動等については、内容が共通するものは合併し、共通しないものについては継続する方向で詳細は両学会で議論して結論を得ます。

ロボット手術関連の事業については、必要に応じて組織を大きく改編することも視野に入れていきたいと存じます。